

## 1 学校教育目標

- 自ら考え創造する人
- 素直で思いやりのある人
- 健康でたくましい人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい中にも温かみのある学校</li> <li>・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校</li> <li>・地域・保護者・生徒から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣に学びにチャレンジする生徒</li> <li>・礼儀を重んじ、適切に表現できる生徒</li> <li>・自らを律し、夢に向かって自立する生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に適切に要求でき、信頼される教師</li> <li>・常に工夫し、建設的な提案ができる教師</li> <li>・組織で教育を実践できる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉

◎学校について [よさ]大変落ち着いた教育環境が提供できている。  
[課題]学校の特色化と魅力ある学校づくりの創造を図る。施設設備の改修、補修。

◎生徒について [よさ]大変素直で、何事にも真面目で熱心に努力している生徒が多い。  
[課題]自ら考え、判断し、表現し、行動しようとするものが少ない。不登校生徒が多い。

◎教師について [よさ]学習・生徒指導に粘り強く取り組み、生徒・保護者からの信頼が厚い。  
[課題]足立スタンダードに基づき ICT を活用した授業改善が進んでいない。自立に向けた教育実践の推進。

◎保護者・地域について [よさ]活気ある学校づくりを願い、教育活動に協力的である。  
[課題]PTA活動の活性化と地域連携・協働をさらに向上する必要がある。

〈前年度の成果と課題〉

○活気があり真面目に努力する生徒の育成が図られている。

○学力の確実な定着と向上に向けた授業改善と家庭の教育力の向上を図ることが課題である。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度）				
		R2	R3	R4	R5	R6

1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△ ●			
確かな学力の定着と学力の向上を図る		<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テスト 正答率60%</li> <li>令和5年度区調査 通過率65%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テスト 正答率59%</li> <li>令和4年度区調査 通過率64%</li> </ul>	目標は、ほぼ達成。次年度に向け取組の見直しを図る。		○			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎○△●
1 継続改善	「分かる授業」への授業改善	全教員	年間2回実施	「足立スタンダード」を活用した授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>授業観察</li> <li>定着確認調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答80%以上</li> <li>ねらい、振り返り80%以上実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答90%以上</li> <li>ねらい、振り返り84%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートでは良い評価であるが、内容の充実を図っていく必要がある。</li> </ul>	◎
2 継続改善	ICTの活用	全教員	年間2回実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>5教科はデジタル教科書の活用</li> <li>その他の教科は单元内でタブレットを複数回活用</li> <li>後期は生徒の活用推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>活用確認調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答80%以上</li> <li>80%以上の活用率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書の活用60%</li> <li>タブレットの活用42%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科による活用の差が大きい。</li> <li>効果的な活用方法を検討し、次年度実施</li> </ul>	△
3 継続改善	放課後補充教室の実施 (がんばるクラブ)	区調査下位(C・D層)生徒対象。	週4回 5教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリルを活用し、全教員が指導にあたり実施</li> <li>11月以降中間層も対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容ごとに定着度を測るテストを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着度テストで80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着度テストで75%</li> </ul>	AIドリルの活用促進とねらい、達成目標の明確化を見直す	○

4 継続	家庭学習 の習慣化	全生徒 毎日提出	年間	・毎日最低ノート1ページ の家庭学習ノートの提出	生徒アンケート 並びに教員 の調査	100%の提出	86%の提出	・小中連携の中で家 庭学習のあり方を再 検討する。	○
5 継続	1年間の 総復習	3教科 1・2年 生	3月初 旬まで に実施	・区調査問題を活用した、 到達確認テストの実施 ・未到達生徒への補習実施	・到達確認テ ストの採点結 果 ・正答率30% 未満の問題を 授業内で再度 指導	平均正答率 60% 平均無答率 5%以下	平均正答率59% 平均無答率9.7%	・教科による差が大 きい ・正答率、無答率共 に数学が課題になっ ている	△
6 継続	サマース クール	5教科の 内容を指 定生徒対 象に補充 する。 区調査下 位(C・D 層)生徒 対象。	夏休み 期間中 の7日 間	基本的な内容の定着を図 るために、教科担任を中心 に全校体制で指導にあた る。AIドリルの活用。	事前事後テス トでの確認	事後テスト参加 生徒の8割が正 答率向上。	正答率向上は参加生 徒の7割。	・5教科実施は継続 ・事前事後テストの 内容及び達成目標の 見直し	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自己肯定感の向上と心の教育の充実		生徒アンケートの肯定的評価 80%	生徒アンケートの肯定的評価 82%	自己肯定感が低い傾向 あり。いじめや心の安 定に関する項目は高 い。	◎
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

不登校生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関と連携した不登校状況の改善</li> <li>・不登校生徒の改善昨年度比 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC や SSW と共に週 1 回の会議を開催し、個に応じた対応を確認し、家庭との連携を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週 1 回は定期的に開催できた</li> <li>・不登校生徒昨年度比 13%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会は開催できた</li> <li>・不登校生徒は増加した</li> </ul>	○
自尊感情を高める指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートの自己肯定感等に関する肯定的な評価を 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学年行事で自尊感情を高める場면을意図的、計画的に設定。</li> <li>・道徳や総合等の時間を利用して、自己肯定感を育む指導を計画的に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートの自己肯定感等に関する肯定的な評価 70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認める指導は実践できている</li> <li>・昨年度よりも自己肯定感の肯定的な評価が低い</li> </ul>	○
いじめ防止および心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区調査、生徒アンケートの肯定的な評価を 80%以上</li> <li>・いじめアンケートの件数昨年度比 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育週間を年 2 回設定し、生徒会が中心となり各委員会の取組を充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートでは「自分や周りの人へのいじめはない」との肯定的回答が 95%。</li> <li>・いじめ件数 30%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答が高い</li> <li>・いじめ件数は件数自体が少ないために%では大きい数字になっている</li> </ul>	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ・重点的な取組事項－1 学力向上アクションプランについて

- (成果) 到達度確認テスト正答率および区調査通過率は、ほぼ達成できた。  
(課題) 授業での ICT やタブレットの活用については、十分活用できていない。

#### ・重点的な取組事項－2 豊かな心の育成について

- (成果) 生徒アンケートの肯定的評価は、いじめや心の安定に関する項目は高い。  
(課題) 生徒アンケートの自己肯定感等に関する肯定的な評価は低い。不登校生徒が増加。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・生徒の自立を目指すために、家庭、地域、学校の役割と関わり方について協力と理解をお願いしたい。
- ・来校する機会や地域行事等への参加が増えるので、協力をお願いしたい。

### (3) その他 (学校教育活動全般について)

- ・Society 5. 0 や SDGs の社会づくりに向けた取り組みを中心に据えた教育活動を構築していく。
- ・ICT を活用した授業や学力補充をさらに推進していく。